

4. 南関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	家電量販店（営業統括）	・貯蓄一辺倒であった状況に変化が見られ、余剰資金を運用にまわす消費者も少なくない。PCの買換需要が出てくる時期に差し掛かっているため、PC本体の販売数量が多くなる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・景気はやや良くなるものの、限りなく変わらないに近い。実感として感じられるほど良くなることはないが、クレジットカードの取扱高や街への来客数の数値には、実感できないぐらいの微増が感じられる。
		百貨店（売場主任）	・猛暑の予測に伴い、夏物がクリアランスに引き続いて好調に推移することが予測され、また、閉店セールを行っている競合店が7月31日で閉店することからその後の客の移動が望まれる。
		百貨店（総務担当）	・夏季ボーナスが前年比プラスになっている企業が多いようで、2～3か月先まで個人消費は伸びる。
		百貨店（広報担当）	・クリアランスは各社商品数量を多めに確保していることから、売上増につながる。
		百貨店（店長）	・企業収益の改善による賃金、ボーナス等の増加と雇用の拡大などを背景に、OL、キャリア層からヤングビジネスマンまで、購買意欲が高まってきている。7月から始まる夏のクリアランスセールや、水着、ゆかた含めたリゾート商品の売行き動向に期待ができる。
		家電量販店（経営者）	・期待どおり今夏が猛暑になれば、省エネ高機能エアコンが白物家電部門を引っ張る。TVも50インチクラスへのシフトにより単価ダウンが回避できそうである。
		乗用車販売店（販売担当）	・今月に入り新型車の導入等により市場も活発になっており、ガスエネルギーの値上がりが見込まれるものの売上は伸びる。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・今年は暑くなるとの予想のもと、季節商材や夏バテ関連を強化することにより夏ならではの展開が期待できることから、商機はたくさんある。
		高級レストラン（支配人）	・近隣に新規施設が出店したことによる客の出入りが目立つようになり、少しずつ周辺に活気が出ている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予定間際の発生件数が伸びていることから、現在の見込み数字が悪くても徐々に復活できそうな予想である。
		旅行代理店（従業員）	・1か月後のイベントの申込が殺到しており、前年比101%が見込まれる。
		通信会社（営業担当）	・販売量自体は先月と変わらない推移をしているが、客の反応は悪くなく、生活必需品以外の商品の需要が増してきており、我々放送通信業界への出費が必要なことについてもある程度認知されてきている。
		通信会社（営業担当）	・ケーブルテレビの加入者数は2か月前より改善傾向にあり、全体的にこれといった目玉はないものの、営業努力で引き続き改善できる。
		その他レジャー施設〔アミューズメント〕（職員）	・夏休みを迎え、学生が主たる客層のアミューズメント施設は売上が伸びる時期である。さらに家庭用ゲーム機本体の販売増に伴いソフトも売れ、業界全体にフォローの風が吹いている。
住宅販売会社（経営者）	・将来的に良くなる気配は随所に感じられるが、中小企業の景気回復と個人所得が増えなければ全体の景気回復にはつながらず、今のように大企業のみが景況回復している状態で終わってしまう。		
変わらない	一般小売店〔家具〕（経営者）	・客単価が非常に低く、高額商品が売れる様子もない。これから先もこのような状況が続き、厳しくなる。	
	一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）	・ボーナス時期、行楽シーズン、バーゲンシーズンに入るが、値ごろの安い商品しか売行きが良くなることから、あまり期待はしていない。	
	一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・文房具は、社会におけるペーパーレスの風潮により衰退していることが否めない。個人では家計にあまり余裕がないと言う声が聞かれ、法人においては文房具は経費削減の対象となってきたり、最近はその傾向が一層顕著である。税金の増加に伴い、客は少しでも財布のひもを絞ろうとする動きがある一方、各社は他業界への侵食等の努力を行っている。	

百貨店（売場主任）	・最近、売上がなんとか前年に届く月が出てきたりと良い雰囲気が見えるものの、今後景気が上向くという実感がつかめない。
百貨店（売場主任）	・全体としての景況感が変わらない。来客数が増えない一方、1人当たりの買上単価が若干上昇している現象が見られ、二極化傾向が進んでいる。
百貨店（総務担当）	・浮き沈みの様相が激しく、現在は購買に意欲的な客でも、今後については楽観できない。
百貨店（広報担当）	・本年の特殊事情として、曜日まわりの関係により、従来7月1日にスタートしていた夏のクリアランスセールを、百貨店各社が6月30日にスタートする関係で、7月の売上はマイナスを想定している。7月4日からは、ボーナスによる自分へのご褒美需要が高まりを見せる時期に、こだわりのある紳士、婦人雑貨をクローズアップしていく予定である。7月11日以降は秋物、秋トレンドを取り込んだ晩夏物ファッションをプロパー価格で展開し、客の期待にこたえていく。
百貨店（営業担当）	・今年の6月は例年に比べ雨の日が少なく、天候が安定していたため、初夏物の婦人服を始め、UV関連の化粧品、日傘等の服飾雑貨商品の動きが良い。株価も好調に推移しており、貴金属や時計、美術品の動きも良くなってきているものの、まだ景気回復とは言い切れない。
百貨店（営業担当）	・現在の婦人、服飾関連の動きが例年に比べて良いことから、商品の供給状況が懸念される。猛暑が続いた場合、秋物の立ち上がりが遅れることによる一時的な落ち込みが見られる可能性が高い。食料品は、伸びは弱いものの堅調に伸びており、全体的に大きく前年を割ることはない。
百貨店（販売促進担当）	・予断は許さない状況ではあるが、中元は引き続き好調に推移している。クリアランスセールもカードホルダー対象特典を多く付けて困り込みを促進しており、施策的な準備はできている。
スーパー（経営者）	・様々な販促をしているが、思うように売上が上がらない。競争が厳しく、売上以上に利益を重視しており、最終的な営業利益が目標予算を達成できるレベルとしている。
スーパー（店長）	・年金による不祥事により、将来に対する不安感が全体で更に強まってきている。
スーパー（店長）	・食品以外の衣料等が既に頭打ちになっている一方、食品の価格訴求が大型店を中心に強くなってきており、食品専門の店舗にとっては価格競争に巻き込まれることに非常に強い危機感を覚える。
スーパー（仕入担当）	・偽造肉の問題発生により、ひき肉、コロッケの動向の鈍化はもとより、生鮮品全体の消費の後退が懸念される。特にこれから気温が上がる夏では、消費者はより慎重に商品を吟味する。
スーパー（統括）	・客の1回当たりの買上点数や買上単価を見ていると決して上昇傾向にはなく、商品を厳選し、必要なものしか購入していないという現状がみられる。
コンビニ（経営者）	・来客数が増え、売上也若干増えてはいるものの、もう少し様子を見ないとどちらとも言えない。
衣料品専門店（経営者）	・社会不安と増税感が強く、買上単価が依然として低いため、しばらくは景気回復の実感が伴わない。
衣料品専門店（経営者）	・バーゲンを早めたことにより来客数が増えており、このまま順調に推移すれば前年比はクリアできる。
衣料品専門店（営業担当）	・客の不況感がなかなかぬぐい切れない。不祥事が多くあり、客の財布のひもは固い。
乗用車販売店（営業担当）	・車1台当たりの単価が以前にも増して下落している。
乗用車販売店（渉外担当）	・新商品投入が若年層の購買活性につながっておらず、台替サイクルの長期化、ガソリン価格不安定材料により前年水準である。
乗用車販売店（販売担当）	・トラック運送業については、業界団体全体で考えない限り地位の向上はありえない。ドライバー不足及び燃料費の上昇にもかかわらず運賃に変化がない状況で、環境規制に対応した車両を購入したため、経営をひっ迫させている。大手は下請に任せていることからゆとりはあるものの、一般の零細企業は相当厳しい。今後も景気は上向かず、トラックの販売量は増えない。

乗用車販売店（総務担当）	・新車投入という起爆剤がないと誘客につながらない。新車の売行きが減少すると、今後のサービス入庫にも影響が出てきてしまう。	
その他専門店〔眼鏡〕（店員）	・来客数はやや上向きの傾向にあるものの、販売単価は逆に下がり気味である。修理による受注も増えており、物を大切にし、再利用する傾向も見受けられる。	
その他専門店〔服飾雑貨〕（統括）	・昨今の税負担増等により、購買モチベーションが低下する。	
一般レストラン（店長）	・2～3か月先も特にイベント等が入っておらず、近隣の状況もあまり良くない。	
スナック（経営者）	・住民税のアップが今月から始まったことにより手取金額が低くなっており、いわゆる小遣いの額が少なくなる。	
旅行代理店（従業員）	・今月同様、団体の見積件数は2～3か月先のみまで増えているものの、受注にまではつながっておらず、状況は変わらない。	
通信会社（総務担当）	・大規模マンションへの入居によるにぎわいの増加及び各種商業施設のオープンが一段落した。	
通信会社（支店長）	・今後、料金サービスを始めた各社の競争が更に激化する。	
その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・学習塾を経営しているが、夏期講習の申込者数が昨年とほとんど同じである。	
設計事務所（所長）	・官庁の仕事量がかかなり少なくなっているなか、民間も我々のクラスでは異常に減少しており、今後の見通しが大変厳しい。	
設計事務所（職員）	・6月に施行された建築基準法改正により、動向に変化はあるものの予測が立たない。	
住宅販売会社（経営者）	・情報過多により、客が住宅購入に関して慌てる様子が全く見られず、新築の戸建てではマンションのように一気に完売する現象もほとんど見られない。また、分譲用の土地も極端に少ない上、相変わらず破天荒な価格で買う業者が多いため、新たな供給ができず、今後はますます厳しくなる。	
住宅販売会社（従業員）	・住宅展示場等の来客数の減少が続いており、土地の流通の回復が感じられないため、夏枯れがますます厳しくなる。	
やや悪くなる	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・来客数は減少し、ギフト券の売上及び引換え等も減少傾向にある。
	一般小売店〔茶〕（営業担当）	・気温、湿度共に高く、暑い日が多く続いており、熱い茶を飲もうという気が起きないため、茶の注文が減ってきている。今年の夏は暑いとの予報があり、麦茶などの冷たい茶やペットボトルなどの注文が増え、茶自体の売上は減少しそうである。
	百貨店（営業担当）	・婦人服に関しては、この春に売れたアイテムが夏物と重複しているため、今後はさらに厳しさを増す。また、一番の商戦であるクリアランスセールも物量不足が否めず、苦戦する。
	百貨店（販売促進担当）	・昨秋オープンした大型ショッピングセンターの影響で来客数が減少している。新規のマンションや、オフィスビルなどが数棟建設中であるため、プラスに転ずる可能性もあるが、現状は立地する街のインフラで大きく差をつけられており、回復の見込みが立たない。
	コンビニ（経営者）	・再開発が終わり客が動くことで、売上が今の4割減にも達しそうな状況であり、景気が悪い。
	コンビニ（店長）	・客の様子から税金の重圧がかかなり大きいと見受けられる。
	衣料品専門店（経営者）	・長期予報どおりの猛暑となると、夏のセールが長引くことで夏物販売が中だるみ、晩夏初秋の商材の動きにも不安が生じ、仕入等も消極的になり売上も低下する。
	衣料品専門店（次長）	・定率減税廃止や、税源委譲による住民税の変更が購買意欲をそぐ可能性を高めている。さらに、ガソリンの高騰によりやや悪くなる。
	乗用車販売店（経営者）	・内需の動きが段々衰えている状況で、値上げ等の問題もあり、消費者の消費意欲が高まることはしばらくなく、むしろ厳しくなる。
	都市型ホテル（経営者）	・これから夏晴れの時期になるが、宿泊部門において、例年夏休みに大きな期待ができる近隣娯楽施設からの来客数が大きく減少してきているため、その影響を心配している。

	都市型ホテル（スタッフ）	・競合他社の出店や適齢人口の減少により、婚礼の利用増加が見込めない。また法人の利用においても高単価のパーティが増えない。会議だけの受注が増えれば客単価も下がり、売上も増えない。周辺に新規に進出してくる企業もあり、宿泊客の人数は前年比実感としては増えているが、宴会利用の減少を補うほどではない。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・8月の披露宴件数が前年比で10件ほど減少し、今からの伸びはあまり期待できない状況である。9月は昨年より件数は多いものの、今年の前算件数にはまだ20件ほど足りない状況で、かなり厳しい状況であることには変わらない。	
	タクシー（団体役員）	・我々の交通圏では2～3か月後に運賃改定が実施される予定である。毎回、料金改定後数か月はその影響で利用者離れがある。	
	通信会社（経営者）	・6月の給与から住民税が高くなる。ボーナスの増加があるとはいえ、消費者の心理として今後の手取りが少なくなるという方が消費にマイナスに効く。	
	通信会社（営業担当）	・デジタル対策を除き、ボーナス期に入ってからからの客の反応が例年より悪い。	
	住宅販売会社（従業員）	・暑い時期を迎え、物件見学のための外出の控えから来客数の減少が見込まれ、景気はやや悪くなる。ボーナス支給の時期ではあるが、年金の不安から買い控えが懸念される状況となっており、景気の良くなる材料が見当たらない。	
	悪くなる	コンビニ（経営者）	・店の周りのコインパーキング等が再開発によってほとんどなくなってしまった。客は駐車場を完備した大型スーパーに買物に行っているようだ。大型スーパーは、週末だけでなく毎日セールを打ちだし、値段も以前より大分魅力的な価格設定になってきており、この状態が続くと少し悪くなっていく。
		美容室（経営者）	・定年退職者がディスカウント店へ流れているようだ。
企業 動向 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・固定の得意先企業から数物の見積が増えてきている。
		輸送業（経営者）	・円ドル関係の為替が円安に振れており、これにより輸送が少しずつ拡大していくと日本の経済にも潤いが出てきて景気の押し上げになる。
		輸送業（営業統括）	・半ばにかけて、飲料関係、エアコン関係等、若干輸送が伸びると見込んでおり、現状よりは少し荷物が動く。
		金融業（審査担当）	・金利は上昇傾向にあるものの、企業並びに個人の資金調達意欲はおう盛で、しばらくこの傾向は続く。
変わらない		食料品製造業（経営者）	・景気が良くなる兆候が見られる一方、それほど良くない状況も発生しており、何とも言えない状況である。
		繊維工業（経営者）	・中小企業での製造量が2、3か月前から変わらず、特殊な技術を持っていても仕事の受注が厳しい状況である。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・原油価格の上昇が再燃し始めたが、大手の客が次月より価格転嫁に応じてくれたことから一息つける。
		金属製品製造業（経営者）	・これまでの発注の様子に変化が見られないため、今後も変わらない。新規開拓をしないと先細りになる懸念がある。
		一般機械器具製造業（経営者）	・減っているものもあれば増えているものもあるという点で、全体的には横ばいである。新規受注を取り込めないと良くなれないが、来年にかけての大ロット商品は取れているものの、いまだ秋に立ち上がるものが取れていない。
		建設業（営業担当）	・建設業に限らず法令遵守の問題が取り上げられ、発注者が企業の見積内容と請負業者の会社内容を重視するようになってきており、客は見積が安いだけでは発注しないケースが増えてきている。
		金融業（審査担当）	・印刷業はここ数年売上が減少傾向にあったが、今年に入り受注が増加してきており、新しい機械の購入を検討し始めている。
		不動産業（総務担当）	・テナント満室状態が当面続く見通しであり、かつ賃料アップの交渉もスムーズに進んでいる。
		広告代理店（従業員）	・仕事量としては若干増えてきているが、利益が薄い入札や企画コンペの仕事が目立つ。
		税理士	・住民税が前年より上がったことによる増税感から、買い控えは必至である。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・増えているのは必要な時だけのスポット作業であり、提案をしても定期的な作業につながりにくい。

	その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・客先によって見通しはさまざまであり、先行き不透明感が強い。
	その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・4月以降、通信系投資案件が活性化してきており、少しずつではあるが上向きの景気は継続している。2～3か月先の状況は現在の引き合い件数から、好調な状況が続く。
やや悪くなる	プラスチック製品製造業（経営者）	・原油等の値上がりの影響が、ここにきてまた発生しており、原材料等の価格が大幅に上昇しているため、むしろ少し悪くなる。
	金属製品製造業（経営者）	・原材料及び石油製品の値上がりに加え、一部消耗工具などへの為替の影響による値上げの話もあり、製造経費が増え続ける傾向にある。
	建設業（経営者）	・建築基準法の改正がなされたが、行政や審査機関でもまだはっきりしたことが分からない状態のようで、建築確認申請が止まっており、客が困っている。
	建設業（経理担当）	・新年度に入り公共工事が発注され、現在はどうにか受注にこぎつけているが、この先民間工事を併せても見通しがつかない状況である。
	金融業（支店長）	・ガソリンの高騰や消費の低迷から考えて、今後景気は悪くなる。税金も上がっていることから消費にも影響が出ており、2、3か月先には景気は悪くなる。
	広告代理店（従業員）	・新規の受注がなく、既存の売上がやや減少している。
悪くなる	輸送業（総務担当）	・得意先の減産態勢が続くとのことで、出荷量の激減により売上が減少し、非常に厳しい現状が当分続く。
雇用関連	良くなる	○
	やや良くなる	○
	人材派遣会社（営業担当）	・求人への依頼は多くなっているものの、人材が不足しており、マッチングが難しい。ただし、求人数が多いことから、人材さえ確保できれば成約につながる。
	人材派遣会社（支店長）	・特に中小企業において採用難となっており、紹介予定派遣などの利用が増えてきている。
変わらない	学校〔専門学校〕（教務担当）	・コンピュータソフト開発系の企業では、以前に比べて格段に内定を取りやすい状況にある。開発の仕事は多数あり、とにかく人材が欲しいとのことである。
	学校〔専修学校〕（就職担当）	・採用数増加のための再募集求人が前年比増加している。
	人材派遣会社（社員）	・募集広告を打っても求職者が集まらないため、コストのみ上昇する。
	人材派遣会社（支店長）	・保険会社の保険料不払いに対する業務はほぼ終了したが、証券会社や銀行における、証券外務員等の有資格者のニーズがみられる。
	求人情報誌製作会社（営業担当）	・正社員、契約社員採用の動きは継続的にあるものの、アルバイト、パート採用の動きが大分鈍っている。季節的な要因以外にも、企業側の採用志向に変化が出てきたと言える。
	求人情報誌製作会社（編集担当）	・製造業などにおける夏期臨時雇用などを含め、短期の求人が予想よりも少ない。早めに人員を確保したためか、それとも企業に一服感があるのか定かではないが、秋までは横ばいである。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・人材派遣を母体にした大手介護企業に関連する報道により、求人を中心であった人材派遣や介護関連企業が様子見をしている。動向がはっきりするまで現在のような状況が続く。
	職業安定所（職員）	・新規求職者数は引き続き減少しており、特に雇用保険受給者が減少しているものの、製造業で小規模な企業整備が予定されているなど、業種間に差が見られる。
	職業安定所（職員）	・今後も事業整備を行うという企業の情報があることから、多くはないものの離職者が発生する。
	民間職業紹介機関（職員）	・新卒採用の激化をうけて、求人数は高位安定しており、求職者数も前年比25%アップで伸びていることなどから今期いっぱいには順調に推移すると判断している。
やや悪くなる	学校〔短期大学〕（就職担当）	・6月になっても毎日求人票が届いており、企業からも電話や訪問を受けている。
	職業安定所（所長）	・在職中の求職者が増加傾向であることや求人への伸びが鈍化していることから、管内の雇用情勢はやや悪くなる。
悪くなる	職業安定所（職員）	・主要産業である大手企業の雇用調整による希望退職の募集が始まり、他社においても同類の話が具体化していることから、下請、関連企業なども含め多くの離職者が発生する。
		—